



**インストレーションガイド
AppDev Studio (バージョン2.0)
Windows版**

序文

本書は、AppDev Studio(バージョン2.0)の導入方法について述べたものです。お使いのマシンにAppDev Studio(バージョン2.0)を導入する場合には、必ず本書をお読みください。

2001年12月
株式会社SASインスティテュートジャパン

本書で解説するソフトウェアはライセンス契約のもとに提供されるものであり、同ソフトウェアはこの契約の条項にしたがってのみ、使用あるいは複写が許可されています。このため、御契約頂いたSASソフトウェアプロダクトを、契約書に記載されている以外のCPU上で使用された場合にトラブルが発生しても、当社は同ソフトウェアプロダクトに関する契約上の保障およびサポートを一切行いません。

本書で使用されているシステム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

目次

第1章 はじめに.....	1
第2章 AppDev Studio Java コンポーネント CD の内容.....	2
2.1 AppDev Studio Java コンポーネント.....	2
2.2 Java Runtime Environment (JRE) と Java プラグイン.....	2
2.3 SAS サーバー用更新ファイル.....	2
2.4 Web サーバー用ファイル.....	2
2.5 AppDev Studio Jar ファイル.....	2
2.6 Nokia Activ Server.....	3
第3章 インストール手順.....	4
3.1 AppDev Studio Java コンポーネントのインストール.....	4
3.2 環境変数の設定.....	4
3.3 SAS ジョブスポナーの起動.....	4
3.3.1 サービスとして SAS ジョブスポナーを起動する場合.....	5
3.4 SAS システムバージョン 8 の更新.....	6
3.5 webAF と webEIS ファイルを Web サーバーへインストールする.....	6
3.6 グラフ出力用サーブレットをサーブレットエンジンに登録する.....	6
第4章 テクニカルサポート.....	8

第1章 はじめに

AppDev Studioには様々なタイプの情報伝達アプリケーションを開発するためのツールが含まれます。AppDev Studioを使用するとスタンドアロン環境で、以下の様なアプリケーションを作成できます。

クライアントサイドまたはサーバーサイドのJavaアプリケーション

CGIアプリケーション

Active Server Pagesアプリケーション

従来からあるフルクライアント形態のアプリケーション

WAPアプリケーション

AppDev Studio Java コンポーネントCDには、Javaアプリケーション作成用のコンポーネントが収録されています。その他のコンポーネントはSASシステムのメディアに収録されています。

第2章 AppDev Studio Java コンポーネント CD の内容

2.1 AppDev Studio Java コンポーネント

AppDev Studio JavaコンポーネントにはwebAFとwebEISが収録されています。また、関連するJavaツールやSASサーバー用更新ファイルも含まれます。その他のプロダクト(Base SAS、SAS/AF、SAS/CONNECT、SAS/EIS、SAS/FSP、SAS/GRAPH、SAS Integration Technologies、SAS/IntrNet)はSASシステムのメディアに収録されています。

2.2 Java Runtime Environment(JRE)とJava プラグイン

Javaプラグインはインターネットエクスプローラやネットスケープナビゲータで、Javaアプレットを実行する際に使用されます。このツールを使用する事によって、異なるブラウザでも同様にアプレットが動作します。Javaプラグインが無い場合、webAFやwebEISで作成されたJavaアプレットは正しく動作しません。webAFやwebEISによって作成されたHTMLには、アプレットをJavaプラグインによって実行するためのJavaスクリプトが含まれます。Java 1.3より、JavaプラグインはJREと一緒にインストールされます。(単独ではインストールできません。)

2.3 SAS サーバー用更新ファイル

webAFやwebEISがSASサーバーと通信するためには、SASシステムを更新する必要があります。AppDev Studio Javaコンポーネントをインストールすると、同一マシンにあるSASシステムは自動的に更新されます。AppDev Studio Javaコンポーネントがインストールされていないマシンでは、SASシステムを手動で更新する必要があります。CD-ROMのSASUpdatesフォルダにSASサーバー用更新ファイルが収められています。

2.4 Web サーバー用ファイル

webAFやwebEISで作成されたアプレットやアプリケーションをWebサーバーからダウンロードして実行する場合、WebサーバーにAppDev Studio用ファイルを追加する必要があります。AppDev Studio Javaコンポーネントをインストールすると、同一マシンのWebサーバーに必要なファイルが自動的に追加されます。webServerフォルダには、違うマシンのWebサーバーにインストールするためのファイルが収録されています。

2.5 AppDev Studio Jar ファイル

AppDev Studioで使用される一部のクラスは、jarファイルとして提供されます。AppDev Studio Javaコンポーネントをインストールすると、これらのjarファイルは自動的にインストールされます。違うマシンにプロジェクトを配置する際、jarファイルのコピーが必要な場合があります。

す。AppDev Studioで作成されたプロジェクトの配置についての詳細は、AppDev Studio開発者用Webサイト(<http://www.sas.com/rnd/appdev/>)をご参照ください。

2.6 Nokia Activ Server

Nokia Activ Serverを使用すると、Webサイトにあるミッションクリティカルな情報が携帯端末で参照可能になります。WAP対応の携帯端末を利用して、Webサーバーやその他のサーバーのコンテンツやサービスを利用するのは、安価で、安全な方法です。また、アプリケーションをNokia Activ Serverで簡単にテストできるように、Nokia software development kit (WAP Toolkit)も収録されています。

第3章 インストール手順

ここでは、AppDev Studio Javaコンポーネントのインストール手順を説明します。CD-ROMドライブにCDを挿入してから、ここにある手順を行ってください。また、この手順ではドライブのルートディレクトリにソフトウェアをインストールします。違う場所にインストールする際は、適切なディレクトリ情報を追加してください。手順は、説明にある順番で実行してください。違う順番で手順を実行した場合、問題が起きる場合があります。

3.1 AppDev Studio Java コンポーネントのインストール

スペースが含まれるフォルダや、そのサブフォルダにはAppDev Studio Javaコンポーネントをインストールしないでください。(例: Program Files)スペースがフォルダ名に含まれる場合、このバージョンではいくつかの問題が発生します。

1. エクスプローラで、CD-ROMドライブを展開します。
2. AppDevStudioフォルダを選択します。
3. setup.exeファイルをダブルクリックします。
4. 画面に現れる指示に従ってください。AppDev Studio Javaコンポーネントをインストールする前に、インストレーションプログラムはJava Development Kit(JDK 1.3.1_01)をインストールします。

3.2 環境変数の設定

通常の開発やテストでは、CLASSPATH環境変数を変更する必要はありません。作成されたアプレットや関連するファイルをWebサーバーにコピーするだけで、Webブラウザからそのアプレットを実行できるようになります。

アプリケーションの配備方法によっては、クライアントマシンのCLASSPATH環境変数を変更する必要がある場合もあります。しかし、このような配備方法はクライアントの管理が煩雑になるため、推奨されていません。

3.3 SAS ジョブスポナーの起動

この節は、既に SAS システムがインストールされている場合にのみお読みください。

SASジョブスポナーは二つ以上同時に起動できません。インストールされているSASシステムのSASジョブスポナーが起動している場合、AppDev Studio用にSASジョブスポナーを起動する前に、それを停止してください。

Windows 9xの場合、AppDev StudioのSASジョブスポナー起動前に、他のSASジョ

ブスポナーが起動していない事を確認します。

Windows NTやWindows 2000でSASジョブスポナーがサービスとしてインストールされている場合、そのサービスを停止する必要があります。SASジョブスポナーがサービスとして起動している事確かめるには、以下の説明を参照してください。

3.3.1 サービスとして SAS ジョブスポナーを起動する場合

サービスとしてSASジョブスポナーがインストールされている事が確かでない場合、以下の手順1と2を実行してください。サービスウィンドウにSASジョブスポナーが存在しない場合、現在SASジョブスポナーはサービスとしてインストールされていません。

スポナーをサービスとして登録する場合は、以下の手順を実行します。

AppDev Studio用にSASジョブスポナーを再インストールするには、現在インストールされているSASジョブスポナーを停止する必要があります。

1. 「スタート」メニューから[設定] [コントロールパネル]を選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
2. リストにあるSAS Job Spawnerを選択します。
3. 「停止」ボタンを押し、確認のダイアログでは「はい」を選択します。
4. コマンドプロンプトを起動します。
5. SASシステムがインストールされているフォルダにあるnls¥jaフォルダへ移動します。
6. 「spawner -delete」とコマンドを入力し、実行します。このコマンドでサービスからSASジョブスポナーを削除できます。SASジョブスポナーの物理ファイルは削除されません。
7. 「spawner -install -comamid tcp -telnet 2323」とコマンドを入力し、実行します。
8. 「サービス」ウィンドウに戻り、「SAS Job Spawner」が選択されている事を確認します。
9. 「開始」ボタンを押します。
10. 「閉じる」ボタンを押します。

以上の手順で、新しいスポナーが起動します。スポナーサービスを元の状態に戻すには、上記の手順を7番だけを変更して実行します。

7. 「spawner -install -comamid tcp」とコマンドを入力し、実行します

SASジョブスポナーがサービスとしてインストールされている場合、SASジョブスポナーはセキュアモードで起動されます。その場合、SASシステムに接続する際に毎回ユーザ

一名とパスワードが必要になります。アンセキュア (unsecure) モードで起動するには、CD-ROMにあるAppDev.regを実行します。AppDev.regを実行するには、システムの管理者権限が必要です。AppDev.regを実行した後、設定を有効にするには、SASジョブスポナーのサービスを再起動します。

3.4 SAS システムバージョン 8 の更新

SASUpdatesフォルダには、SASシステムを更新する際に必要なSAS移送ファイルが収録されています。ローカルマシンのSASサーバーを使用する場合、AppDev Studio Javaコンポーネントをインストールする際に自動的にSASシステムが更新されます。違うマシンのSASサーバーを使用する場合、以下のファイルを使用してSASシステムを更新する必要があります。

SASUpdates/v8/appdev.cpo

SASシステムの更新手順

1. サーバーにappdev.cpoをコピーします
2. サーバーのSASシステムを起動します
3. 以下のプログラムを入力し、サブミットします

```
filename updates '移送ファイルのパス';  
proc cimport library=sashelp infile=updates force; run;
```

3.5 webAF と webEIS ファイルを Web サーバーへインストールする

この作業はAppDev Studio Javaコンポーネントのインストレーションプログラムが行いますが、別マシンのWebサーバーを使用する場合この作業を手動で行ってください。

CD-ROMのwebserverフォルダには、webAFとwebEISに関連するファイルが収められています。Windowsでは、sasweb.zipを、その他のプラットフォームではsasweb.tarをWebサーバーのホームディレクトリに展開します。Microsoft Peer Web Serverを使用する場合、デフォルトのホームディレクトリは¥inetpub¥wwwrootとなります。ファイルを展開する際には、ファイル名の大文字と小文字を区別するツールを使用してください。

3.6 グラフ出力用サーブレットをサーブレットエンジンに登録する

Tomcat以外のサーブレットエンジン (BEA Weblogic Server等) を使用しJSPまたはサーブレットでグラフを出力するには、グラフ出力用サーブレットをサーブレットエンジンに登録する必要があります。

Webアプリケーションのフォルダにある、WEB-INF¥web.xmlファイルに以下の様な記述を追加し、サーブレットエンジンを再起動してください。

```
<servlet>
```

```
<servlet-name>ContentServlet</servlet-name>  
  <servlet-class>com.sas.servlet.util.ContentServlet</servlet-class>  
</servlet>  
<servlet-mapping>  
  <servlet-name>ContentServlet</servlet-name>  
  <url-pattern>/servlet/com.sas.servlet.util.ContentServlet</url-pattern>  
</servlet-mapping>
```

第4章 テクニカルサポート

SASインスティテュートジャパンでは、SASコンサルタントからの技術的な質問について**FAX、電子メール**でのテクニカルサポートを提供しています。

その他、World Wide WebによるFAQ(Frequently Asked Questions)などの技術情報や修正モジュールの提供も行っています。

SASシステムに関するサポートは、SASインスティテュートジャパンと各サイトのSASコンサルタントが共同で行います。SASインスティテュートジャパンはソフトウェアのメンテナンスを担当し、各サイトのSASコンサルタントは直接ユーザーサポートを提供します。**SASコンサルタントが解決できないような問題に関しては、SASコンサルタント自身がSASインスティテュートジャパンのテクニカルサポートと連絡をとります。**できるかぎり効率のよいサービスを行うために、SASコンサルタントからご連絡ください。

テクニカルサポートでは、SASシステムでのユーザーエラー、システムの互換性上の問題、SASステートメントの構文に関する質問、プロシジャとその出力などに関して、サポートを提供します。ただし、**特定目的用アプリケーション、ユーザープログラムの作成、新規ユーザーの教育、手法一般についての質問に関してはテクニカルサポートの範囲外となります。**これらのご相談につきましては弊社担当営業へご連絡ください。(代表) 03-3533-3760

テクニカルサポート連絡先

FAX: 03-3533-3781 TEL: 03-3533-3877

電子メール: support@jpn.sas.com

(電子メールでご質問をいただく場合、決まった書式があります。最初にSubjectを**help**として、お送りください。)

World Wide Web

<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/service/index.html>

AppDev Studio(バージョン2.0)インストールガイド

2001年12月3日 1版第1刷発行

発行元 株式会社SASインスティテュートジャパン

〒104-0054 東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F

電話 03(3533)3760

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL : 03 (3533) 3877

FAX : 03 (3533) 3781